

熊本県感染症情報 (6月14日～6月20日)

KKT 熊本県民テレビ 医療サイト事務局

◆◆◆ 感染症胃腸炎、ヘルパンギーナ、水痘の報告が多い ◆◆◆

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	7	27	百日咳	2	2
RSウイルス感染症	0	2	ヘルパンギーナ	86	83
咽頭結膜熱	18	12	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	68	92
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	45	51	急性出血性結膜炎	1	0
感染性胃腸炎	291	317	流行性角結膜炎 (はやり目)	15	14
水痘	72	88	細菌性髄膜炎	1	0
手足口病	63	82	無菌性髄膜炎	3	0
伝染性紅斑 (りんご病)	47	42	マイコプラズマ肺炎	1	3
突発性発しん	65	42	クラミジア肺炎	0	0

- 感染性胃腸炎は、報告数 291 件(前週報告数 317 件)と減少。
地区別では、天草、山鹿、宇城に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の50件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは、報告数 86 件(前週報告数 83 件)と増加。
地区別では、天草、菊池、宇城に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の27件を最多に、10～14歳以下からの報告である。
- 水痘は、報告数 72 件(前週報告数 88 件)と減少。
地区別では、人吉、山鹿、水俣に報告が多くみられる。
年齢別では、3歳の19件を最多に、10～14歳以下からの報告である。

伝染性紅斑 (りんご病)

5月頃から、伝染性紅斑の報告が増加しています。頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。頬に発疹が出る7～10日くらい前に、微熱やかぜ症状などが見られることが多く、この時期、咳をした時のしぶきやくしゃみで感染します。発疹が現れる頃には、感染力はほぼ消えています。

ほとんどが自然に回復しますが、大人は、熱や関節痛などが強く出ることもあります。妊婦さんが感染した場合には、流産の原因になることもあり、注意が必要です。

◆◆◆ 年齢別発生状況 (インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点) ◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5 ヶ月	6～11 ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳 以上
インフルエンザ	7			1						3	1				1						1
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	0																				
咽頭結膜熱	18		3	8	3	3							1								
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	45			1	5	8	7	6	3	7	2	2	2	2	2						
感染性胃腸炎	291		23	50	42	30	17	17	11	10	15	12	34	7	23						
水痘	72	1	3	12	13	19	7	9	2	2	2	1	1								
手足口病	63		2	21	17	9	5	5	1	1	1				1						
伝染性紅斑	47			4	2	10	4	5	3	3	6	5	5								
突発性発しん	65	2	33	30																	
百日咳	2							1				1									
ヘルパンギーナ	86		5	27	21	9	11	6	3	2	1		1								
流行性耳下腺炎	68		1	4	9	8	13	14	7	6	4	1	1								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	1																	1			
流行性角結膜炎	15				1										1	4	2	4	3		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1														1						
無菌性髄膜炎	4	1		2																	1
マイコプラズマ肺炎	1		1																		
クラミジア肺炎	0																				

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課